

〈セミナーのご案内〉

● 今回配布先を限定しておりますので、関係各位へのご回覧につき、ご高配をお願いいたします。

回				
覧				

高等教育活性化シリーズ 419 (通算 751 回)

2021年8月5日(木)

学修歴・成果の可視化と教学責務

DX時代におけるIRの本質的な存在意義と機能強化の方向性

～ IRが、大学教育や大学文化の破壊者とならないために、いま本当に考えなければならないこと ～

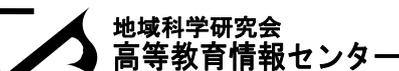
- ※ 教育・研究・社会貢献等の目的としての責務/法令遵守、説明責任等のマネジメント上の責務
- ※ 今こそEMIRが必要/IRを再定義/DXの本質/データの民主化とデータガバナンスの実現

● 講師 ●

福島 真司 氏 / 大正大学 エンロール・マネジメント研究所 所長
 地域創生学部 教授

*エンロール・マネジメント研究所のHP <https://emir01.tais.ac.jp/website/>

2021年8月5日(木) 日本教育会館 会議室 (東京・神保町) & オンライン



日時：2021年8月5日(木) 13:00 ~ 16:30
 会場：日本教育会館 会議室 (東京・神保町)
 千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL 03-3230-2833
 アクセス：東京メトロ半蔵門線・都営新宿線「神保町駅」
 A1出口より徒歩3分
<http://www.jec.or.jp/koutuu/>
 ※受講証及び会場の地図の送付をもって参加受付となりますので、必ずご確認ください。
 参加費：A. ご一名(資料代込)28,000円(税込)
 B. メディア参加(資料・音声CD送付) 30,000円(送料、税込)
 C. 高等教育同人(☆) 14,000円(税込)
 ※「オンライン当日参加」は、ウェブ会議システム「Zoom(ズーム)」を使用予定です。
 ※メディア参加とは、開催当日に聴講が難しい方の参加形式です。開催後に当日配布資料及び講義の音声を収録したCDを送付します。
 ※当日参加とともに音声CDをご希望の方には、別途販売もしておりますので、お問い合わせください。
 ※参加費の払い戻しは致しません。

☆ 高等教育計画経営研究所同人はKKJのHPでご確認願います。

申込方法：参加申込書に所要事項を記入のうえ、FAXまたはE-mailにてご送付ください。

支払方法：銀行振込・当日払いがあります。

みずほ銀行麹町支店 普通 1159880
 三菱UFJ銀行神田支店 普通 5829767
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658
 口座名 (株)地域科学研究会

※ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます。

申込先：地域科学研究会・高等教育情報センター

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-3-10

ライオンズマンション平河町 101

Tel:03(3234)1231 Fax:03(3234)4993

E-mail:kkj@chiikikagaku-k.co.jp

HP : <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/kkj>

(※参加申込みの折は、必ずFAXかE-mailにてお送りください)

研修会参加申込書

高等教育活性化シリーズ 419

年 月 日

DX時代におけるIRの本質的な存在意義と機能強化の方向性

(該当する□に✓印を) 当日会場参加 オンライン当日参加 メディア参加

支払方法 当日払い 銀行振込

必要書類 請求書 見積書 領収書

勤務先 _____

所在地 (〒 _____)

(請求書等に記載の宛名 _____)

TEL _____ FAX _____

連絡部課・担当者名 _____

メールアドレス _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
13:00 }	<p>I. 高等教育を取り巻く内外環境と大学の責務 ～ 教育・研究・社会貢献等の目的としての責務/法令遵守、説明責任等のマネジメント上の責務 ～</p> <p>1. インサイド：エビデンスデータ重視と内部質保証システムへの期待 諸制度におけるIRに関連する項目の増大/内部質保証での「学修成果の可視化」</p>
13:50 }	<p>2. アウトサイド：EBPMとテクノロジーの発展 データドリブンとは何か、どのような状態をさすのか/エビデンスとは何か、日本の教育においてRCTは可能か/DXやテクノロジーの正しい理解、AIのバイアスをどのように考えるのか</p> <p>3. 大学の責務 教育・研究・社会貢献上のゴールをめざす/コンプライアンス・アカウンタビリティを担保する マネジメントとガバナンス (質疑応答)</p>
13:50 }	<p>II. IRが、大学教育や大学文化の破壊者とならないために、いま本当に考えなければならないこと ～ 今こそEMIRが必要とされる理由/今こそIRの本質的な機能強化が必要である理由 ～</p> <p>1. 今こそEMIRが必要 EMIRのキーワードは「横断(Crossing)」/学生を特定部署の見方だけで決めない/学修成果だけではなく学修歴も分析し、学生の物語を紡ぐ/EMは、部署横断的な議論を最も重要とする考え方であり、合意形成を重視する組織文化とフィットする/現代的なマーケティング「全てのステークホルダーにとっての価値の実現」/トップダウンやボトムアップではなく、ステークホルダーとのインターフェイス重視型のマネジメント/マーケティングとPR(パブリックリレーションズ)の本質的な類似性</p>
14:40 }	<p>2. 今こそIRの本質的な機能強化が必要 IRの期待、役割、要望の高まり/組織的な倫理と大学ガバナンスの重要性/IR内部にもガバナンスが必須、1人で腕を磨くだけでは済まない時代へ/全てのステークホルダーにとって等価な独立した組織であること、自分たちの仕事を自分たちでコントロールできるか/「スピード重視」という思考停止から「クオリティ重視」へ (質疑応答)</p>
14:50 }	<p>III. IRを再定義する ～ マジックナンバー3で説明されるIR ～</p> <p>1. 目標や責務の考え方 3つの向き(内部向け、外部向け、監督官庁向け)/3つの責任(説明責任、意思決定支援に対する責任、データの中立性に対する責任)</p>
15:40 }	<p>2. 業務の考え方 3つの役割(IRの基本的な機能を実現する役割、情報共有や提供者としての役割、データガバナンスにおいて果たすべき役割)/3つのレポート(定型的なIR「FACTBOOK」、定例的なIR「ANNUAL RESERCH & REPORT」、探索的なIR「PROJECT RESERCH」)</p> <p>3. 組織構成の考え方 IR部署内の3つの役割分担(スーパーバイザー、プロフェッショナル・スタッフ、ディスカッションパートナー)/何がアウトソーシングできて、何はしてはいけないのか (質疑応答)</p>
15:40 }	<p>IV. DX時代におけるIRの本質的存在意義と発展の方向性 ～ DXの本質であるデータの民主化とデータガバナンスの実現 ～</p> <p>1. DXの本質「データの民主化」とそれを支える「データガバナンス」 情報に関連するCxO(CIO、CISO、CTO、CDO<Data>、CDO<Digital>)のトレンドと役割を整理する/フラットな情報共有や議論を求めない組織には、DXは不要であり、かつ、DXは起こり得ない/今後、データガバナンスは、ガバナンスの最重要要素の1つとなる</p>
16:30 }	<p>2. DXの成功も、IRの未来も、「グッド・ガバナンス」と共にある IR組織は、データガバナンス、ひいては大学ガバナンスを強く意識した発展をめざす必要がある/DX時代においては、大学の価値を持続的に高めるため、IRのグランドデザインの策定は必須である/IRのグランドデザインは、大学ガバナンスのグランドデザインと共にあるべきである (質疑応答)</p>